

令和3年度高齢者実態把握調査の結果について

1 目的

要介護状態となるおそれのある高齢者を早期に把握するとともに、要介護状態に陥るおそれのあるリスクについて分析し、介護予防事業を効果的に展開することを目的とする。

2 対象者

調査対象	令和3年6月1日現在、市内在住の75歳以上の高齢者で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方
対象者数	6,910人
調査期間等	令和3年7月16日から令和3年8月6日まで（郵送による配布・回収）

3 回答者数

項目	調査対象者数	回答者数	回答率
市全体	6,910人	4,613人	66.8%
男性	3,399人	2,235人	65.8%
女性	3,511人	2,378人	67.7%

4 市内の状況

- 7つのリスク（①生活機能低下、②運動機能低下、③低栄養、④口腔機能低下、⑤閉じこもり、⑥物忘れ、⑦うつ傾向）について、1個以上リスクが該当する方の出現率は56.2%であった。⇒リスク項目に1つも該当しない高齢者は43.7%
- 市全体では、「⑦うつ傾向」が30.6%で最も高くなっており、次いで、「⑥物忘れ」が27.0%、「④口腔機能低下」が21.0%となっている。
- 地区別に出現率の高いリスク項目をみると、各リスク出現率の高い地区が「東部（包括ぺんぎん）地区」と「南部（包括いきいき）地区」に集中している。

5 回答者及び未回答者の状況

元気高齢者	回答者				未回答者
	リスクのある高齢者（2,596人）				
	リスク大	リスク中	リスク小	判定不能者	
2,017人	409人	1,458人	725人	4人	2,297人

6 訪問の状況

訪問期間	令和3年10月18日から令和4年3月31日まで
訪問員	市生活支援員（4名）、地域包括支援センター職員

7 訪問数

訪問員	訪問対象者※	対象者内訳
生活支援員	4,369人	・リスク中・小と判定された方 ・判定不能と判定された方 ・未回答の方
地域包括支援センター	524人	・リスク大と判定された方 ・リスク中・小と判定された方のうち、リスク大の方と同居の方

※「訪問対象者」は、5回答者及び未回答者の状況中、「元気高齢者2,017人」以外の方

8 訪問結果

訪問員	訪問実数	面会等※	内訳				
			特に支援の必要がない方	継続的な見守りが必要な方	包括又は関係課等につないだ方	介護予防事業につないだ方	介護認定申請につないだ方
生活支援員	3,693人	2,800人	2,477人	293人	22人	3人	5人
地域包括支援センター	500人	421人	381人	16人	0人	0人	24人

※「面会等」には電話を含む

9 調査・訪問結果の総括

《実態把握調査結果》

新型コロナウイルスの感染拡大が、高齢者の生活へ「人と会う機会の減少」や「運動する機会の減少」という形で現れ、「毎日の生活に充実感がない」ことが、「うつ傾向」につながっている可能性があることが分かった。

《訪問結果》

- 面会した方の多くは、現時点で「特に支援の必要がない方」であった。この方々は、就労、あるいはコロナ禍においても感染症に注意しながら、ラジオ体操やウォーキング等を行い、健康づくりに取り組んでいた。
- アンケート未回答の方は、「元気なので回答しなかった」など、元気な方が多かった。
- 面会時に、「特に相談ごとがない方」が、後日、生活支援員や地域包括支援センターに、健康面や認知面で相談につながるケースがあった。